

経済学研究科

【ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）】

経済学研究科では、以下の能力を修得した上で、研究科の学位授与方針を満たした人に修士（経済学）の学位を授与します。

- 現実の経済の動向を分析することができる高度な専門知識
- グローバル経済や地域社会の諸問題に関する十分な研究遂行能力と問題解決能力
- 社会の多様性に配慮しながら、実社会において主体的かつ協働的に貢献できる能力

そのためには、所定の単位を修得するだけでなく、研究倫理に関する講習をはじめとして、研究計画書の作成やその面接（修士1年・1回、修士2年・1回の計2回）、修士論文発表会（2回開催、そのうち1回は駿河台大学総合政策研究科との共同開催）等の機会において複数の教員等から受けた問題点を修正した上で修士論文を提出し、当該分野において十分な研究水準に到達し、幅広い学識を有しているという基準による審査を受け、最終の口頭試問に合格する必要があります。

【カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）】

経済学研究科では、経済学の理論的観点を踏まえながら、現実の経済の動向を分析する能力を有し、経済社会を担う研究者や専門的な職業人の育成を目指すという教育目的を実現するため、経済学の分野ごとに複数科目を配置する幅広いカリキュラムを編成しています。また、経済学系統以外の学部を卒業した人には、基礎経済学、基礎経済政策学を用意することで、段階的、体系的なカリキュラムを編成し、グローバル経済や地域社会の現実を解明するための高度な専門知識の修得や研究遂行能力の育成を行います。

【アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）】

経済学研究科では、本学の建学の精神である「学問による人間形成」に基づいた教育を実践するため、経済学の高度な専門領域において深い学問的探究をし、それをつうじて社会に有為な人材を育成することを目的としています。具体的には以下の記述に該当する人を受け入れます。

- 経済学を真摯に学び、現実の社会、特に地域社会が抱えている諸問題の解決策を求める人
- グローバルな視野に立って日本のみならず海外における経済の現状を意欲的に考え、研究遂行能力の向上を目指す人
- 高度な専門的能力の修得に強い意欲をもつ人
- 自らの社会経験を経済学の学習と関連づけたいという希望をもつ人

(2023 年 4 月入学者用)